

# 川角中だより

第14号（最終）

令和6年3月26日

夢をもち世界にはばたく毛呂山の子ども「進取 克己 親和」



## 『準備』

校長 小熊 三矢子

本日で令和5年度204日間が終了です。保護者・地域の皆様のお蔭をもちまして、大きな事故もなく、何とか無事に修了式を迎えることができました。ありがとうございました。

3月15日、第77回卒業式を挙行了しました。自慢の3年生が川角中の誇りを胸に立派に卒業していきました。小学校の入学式以来の正式な儀式です。保護者の皆様、来賓の皆様にも参加していただきました。最初の国歌斉唱から始まり、授与の時の返事・姿勢・目線、校歌、合唱、生徒たちの魂を感じる式となりました。川角中で学んだ彼らは、今度は「自分の、自分による、自分だけの人生」を見つけ、挑み、楽しんでくれるはず。彼らが切り拓く素晴らしい未来と活躍を楽しみにしています。



さて、令和5年度最終号では、令和6年度に向けての『準備』について考えてみたいと思います。『準備』を辞書で引くと、「これから起こるとわかっていることに対して、必要なものを用意したり、態勢を整えたりすること」とあります。すなわち、起こるかどうかわかっていることに対して使われる言葉であり、必要なものをそろえるだけでなく、組織や運営等、総合的に整えることを意味します。「3年生を送る会」「卒業式」と2年生、1年生で本当によい「準備」をしてくれました。何がよいかというと、一人一人が準備一つ一つに心をこめて取り組んでいたのです。教室の掃除や片付けはもちろん、メッセージや飾り付け、体育館のセッティング、昇降口のタイルまで磨き上げていました。そんな姿も私の目に焼き付いています。きっとこの2年生、1年生なら来年度さらに磨きをかけた生徒になれると実感したのです。令和6年度にやりたいこと、こうなりたいと思っていることをイメージし、そのために、今、何が必要で、何をしなければいけないのかを考え、実現に向けて動き出すことが、この春休みにすることです。1年生は、先輩に。学校の味を決める大事な中身になります。2年生は、最上級生に。川角中の顔になります。1年後、自慢の3年生になっていることでしょう。この春休み、たった12日間ではありますが、皆で、「いい準備」をしていきましょう。

保護者の皆様、地域の皆様、お世話になりました。本当にありがとうございました。来年度も、川角中学校をよろしく願っています。

希望の登校・笑顔の活動・満足の下校